

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・通信）

事業者名： 社社会福祉法人 福陽会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	1.5
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1.5
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	1.5
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1.5

1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1) 同左	3	(1) 講義及び演習：介護保険・介護保険外のサービスについて講義を行った後、演習にて職務の理解の視聴覚教材を用い、身近なサービスについてグループ討議し発表する	
(2) 同左	3	(2) 講義のみ	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 同左	6	(1) 講義のみ	
(2) 同左	3	(2) 講義及び演習：自立支援、残存能力の活用法の講義を行った後、演習にて介護親や意欲を高める支援についてグループ討議し発表する	
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1) 同左	1.5	(1) 講義及び演習：地域包括ケア、介護理念の講義を行った後、演習にて介護と多職種連携や、家族による介護と専門職による介護の違いについてグループ討議し発表する	
(2) 同左	1.5	(2) 講義及び演習：介護職の職業倫理や社会的責任の講義を行った後、演習にて職業倫理や、介護職が利用者や家族と関わる際の留意点についてグループ討議し発表する	
(3) 同左	1.5	(3) 講義及び演習：介護における安全確保、介護事故の講義を行った後、演習にて介護におけるリスクやストレスを挙げ、緊急対応等についてグループ討議し発表する	
(4) 同左	1.5	(4) 講義及び演習：安全衛生教育の講義を行った後、演習にて介護職の健康障害や、それらに対する健康管理やストレスマネジメントのあり方についてグループ討議し発表する	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 同左 3	(1) 講義のみ
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	(2) 同左 3	(2) 講義及び演習：障害者自立支援制度の講義を行った後、演習にて障害者福祉の理念、権利擁護や成年後見制度等についてグループ討議し発表する
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左 3	(3) 講義のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習：コミュニケーションの意義・目的の講義を行った後、演習にて二人一組でコミュニケーションの技法を体験し、その意義や役割についてグループ討議し発表する
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左 3	(2) 講義及び演習：チームによる介護の講義を行った後、演習にて介護サービスにおける記録の記載方法を体験し、報告や相談の際の留意点等についてグループ討議し発表する
6 老化の理解 6時間	6 老化の理解 6時間	6 老化の理解
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習：老化の特徴の講義を行った後、演習にて老化に伴う心身の変化や特徴、介護職員の関わり方についてグループ討議し発表する
(2) 高齢者と健康	(2) 同左 3	(2) 講義及び演習：高齢者と健康の講義を行った後、演習にて高齢者に多い疾病や感染症、生活習慣病、日常生活上の留意点についてグループ討議し発表する
7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左 2	(1) 講義のみ
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左 1	(2) 講義のみ
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 同左 2	(3) 講義及び演習：認知症の中核症状・周辺症状の講義を行った後、演習にて認知症の生活障害や心理・行動の特徴、介護職員の関わり方についてグループ討議し発表する
(4) 家族への支援	(4) 同左 1	(4) 講義及び演習：家族の介護負担等の講義を行った後、演習にて介護負担の軽減、家族の気持ちやストレスへの支援方法についてグループ討議し発表する

8 障害の理解	3時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護	
(実習)※	(50～55時間中12時間以内)
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間

8 障害の理解	3時間
(1) 同左	1
(2) 同左	1
(3) 同左	1
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10時間
(1) 同左	4
(2) 同左	3
(3) 同左	3
イ 生活支援技術の講義・演習	53時間
(4) 同左	3
(5) 同左	3
(6) 同左	6
(7) 同左	6
(8) 同左	6
(9) 同左	6
(10) 同左	6
(11) 同左	6
(12) 同左	3
(実習)※	8時間
同左	8
同左	

8 障害の理解	
(1) 講義及び演習：障害の基礎的理解の講義を行った後、演習にてICFの考え方、障害者福祉、QOLの向上についてグループ討議し発表する	
(2) 講義及び演習：障害の医学的側面等の講義を行った後、演習にて各障害の内容や特徴、支援の考え方についてグループ討議し発表する	
(3) 講義及び演習：家族の心理の講義を行った後、演習にて障害のある本人とその家族を支援する際の留意点や、介護負担の軽減についてグループ討議し発表する	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習：記憶や感情のメカニズム等の講義を行った後、演習にて老化を受け入れる適応行動や、ころに与える影響についてグループ討議し発表する	
(3) 講義及び演習：人体の構造と機能、ころやからだのしくみの講義を行った後、二人一組でバロメータの測定方法を体験し、尊厳ある介護についてグループ討議し発表する	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習：生活と家事の理解の講義を行った後、演習にて生活・買い物支援方法、認知症高齢者への関わりについてグループ討議し発表する	
(5) 講義及び演習：快適な居住環境の講義を行った後、演習にて高齢者・障害者の身体状況に合わせた介護や、福祉用具の選択、住宅改修についてグループ討議し発表する	
(6) 講義及び演習：整容に関する基礎知識や意義の講義を行った後、「脱健着患」の原則で、二人一組で浴衣と寝間着の着脱介助等の実技演習を行う	
(7) 講義及び演習：移動・移乗に関する基礎知識やボディメカニクスの講義を行った後、介護ベッドや車いすからの移動・移乗方法、体位変換、歩行介助の実技演習を行う	
(8) 講義及び演習：食事に関する基礎知識の講義を行った後、食事用自助具の技法、フォーク・セリ類を使用して二人一組で相互に食事介助の実技演習を行う	
(9) 講義及び演習：入浴、清潔保持に関する基礎知識の講義を行った後、浴槽や入浴補助用具の使用法、清拭の技法、二人一組で相互に手浴・足浴の実技演習を行う	
(10) 講義及び演習：排泄に関する基礎知識、自立に向けた支援の講義を行った後、排泄用具の活用方法や、二人一組で相互に各種おむつを使用した排泄介助の演習を行う	
(11) 講義及び演習：睡眠に関する基礎知識の講義を行った後、介護ベッドを使用しベッドメイキング、体位変換、褥瘡予防の実技演習を行う	
(12) 講義及び演習：終末期に関する基礎知識の講義を行った後、演習にて「死」に向かう心の理解や、尊厳ある死への支援、ケア等についてグループ討議し発表する	
(実習)※	
サンシャインビラ、第2サンシャインビラ、第3サンシャインビラの中から1つの施設を選択し、実習を行う	

別記第1号の2様式

在宅サービス提供現場見学	○時間	同左		
ウ 生活支援技術演習	10~12時間	ウ 生活支援技術演習	12時間	ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解		(13) 同左	6	講義及び演習：専門性を活かした介護過程の展開の講義を行った後、演習にて事例に基づきグループで個別援助計画を立案・作成し、介護実践について討議し発表する
(14) 総合生活支援技術演習		(14) 同左	6	講義及び演習：今まで学習した総まとめの講義を行い、事例（Yさん、80歳女性、右片まひ、失語症、要介護4）から、介護過程の展開についてグループでロールプレイする
10 振り返り	4時間	10 振り返り	4時間	10 振り返り
(1) 振り返り		(1) 同左	2	(1) 講義及び演習：初任者研修の振り返りの講義を行った後、研修を通して学んだ事、自立を支援する介護のあり方、知識の重要性についてグループ討議し発表する
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	2	(2) 講義及び演習：就業の備えと継続的学習の講義を行った後、演習にてキャリアパス、OJT、チームアプローチの理解の重要性についてグループ討議し発表する
追加カリキュラム				
計	(130時間)	計	(130時間)	

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。